

第8回あきる野市絵画展

入賞・入選作品展目録 表彰式プログラム

会期:令和8年3月18日(水)～3月23日(月)

午前10時～午後5時

(18日は午後1時から、23日は午後3時まで)

会場:あきる野市中央公民館 1階市民ギャラリー、第5研修室



第8回あきる野市絵画展 最優秀賞 「在りし日の牛柁」羽村伊左雄さん

主催 第8回あきる野市絵画展実行委員会・あきる野市教育委員会

第8回あきる野市絵画展

第8回あきる野市絵画展は、コロナ禍により6年間休止しておりましたが、市民で組織した第8回あきる野市絵画展実行委員会委員の皆様のご理解とご協力をいただき開催することができました。深く感謝申し上げます。

そして、あきる野市の生涯学習の推進をめざし、文化的で魅力あふれるまちづくりと地域の芸術・文化の振興を目的として、あきる野市教育委員会と実行委員会との協働により、実施いたしました。公募の結果、あきる野市内外の皆様より52点の作品をご応募いただきました。

応募作品の審査にあたりましては、埼玉大学名誉教授で二紀会理事の吉岡正人氏及び帝京大学名誉教授で荏原 畠山美術館館長の岡部昌幸氏のお力添えを賜り、最優秀作品1点、優秀作品2点、秀作3点、佳作9点及び入選作品37点をお選びいただきました。厚く御礼申し上げます。

あきる野市絵画展は、秋川流域の風景・風俗・行事・史跡・静物・人物などを原則としてテーマに制作した洋画(油彩・水彩・アクリル・パステル画)作品を広く市内外から公募し、優秀作品を称揚するとともに、入賞・入選作品を展示・公開するものです。

本絵画展を通して、多くの方々に秋川流域を中心とした自然が育む美しさや地域の優しさ、郷土愛を感じていただけることと存じます。

皆様方から寄せられたご意見やご要望を踏まえ、次回にあきる野市絵画展の開催に向けて努力して参りますので、今後ともご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

第8回あきる野市絵画展実行委員会・あきる野市教育委員会

- ▽公募期間 令和8年2月20日(金)～22日(日)
- ▽審査日 令和8年2月24日(火)
- ▽受付・審査 あきる野市中央公民館(市民ギャラリー)
- ▽応募総数 52点(油彩22点、水彩17点、アクリル9点、パステル4点)
- ▽応募者数 43人(市内32人、市外11人)
- ▽審査結果
 - ☆最優秀賞 1点(油彩1点)
 - ☆優秀賞 2点(油彩1点、水彩1点)
 - ☆秀作 3点(油彩2点、アクリル1点)
 - ☆佳作 9点(油彩2点、水彩2点、アクリル3点、パステル2点)
 - ☆入選 37点(油彩15点、水彩15点、アクリル5点、パステル2点、)
- 入賞・入選 合計 52点 43人(市内32人、市外11人)
- ▽入賞・入選作品展 令和8年3月18日(水)～3月23日(月)
中央公民館1階市民ギャラリー、第5研修室
- ▽表彰式 令和8年3月22日(日)午前10時 中央公民館3階音楽室

●…………… 第 8 回あきる野市絵画展審査員総評 ……………●

審査員 吉岡正人（埼玉大学名誉教授・二紀会理事）

久しぶりの「あきる野市絵画展」だったが、審査室に入って並べられた作品を通観した印象は、以前よりもっと描き込んだ作品が多いかな、というものだった。

実際、一点一点を見ながら審査をしてやはり緻密な表現の水彩画の割合が以前より多く感じられた。これはテレビ番組の影響かもしれない。それぞれの作品については各作品の講評を参照頂きたいが、魅力ある作品も多数あり、楽しい時間であった。良い作品に出会えた時には「本当に良い作品ですね」と作者に伝えたいと思う。同じものを美しいと思う共感、制作者も鑑賞者も幸せにする。私たちは審査員という立場で「賞」という形で自分たちの感動を制作者に伝えたいと思っている。良い作品を描いてくれた感謝を込めて。

「賞」に入らなかった作品にも実は良いと思われる作品は多数あった。作品というのは魅力的な表現（つまり得点）と上手く表現出来ていない部分（つまり減点）とがどちらも画面に現れている。その場合、減点の少ない作品より、得点の多い作品により魅力を感じる。自分の描きたかった感動を何とか画面に定着させるよう頑張っ、そして、鑑賞者と感動を共有して欲しい。それが「絵画」だから。

審査員 岡部昌幸（帝京大学名誉教授・荏原 畠山美術館館長）

ひさしぶりに開催された絵画展の応募数は減少したが、新しい出品者が増加したことは、審査会場に入った瞬間に感じたことである。新風が吹き込んだといえよう。新しいだけでなく、意欲的で技巧も高度な出品が増え、練度のレベルが上昇したともいえる。そして、本絵画展の素晴らしさは、テーマとモチーフが地域の自然、文化、歴史と不即不離であることである。出品された絵画によって、地域を見直し、歴史と文化財の意義をわかりやすく感じることができる。出品作のすべてがわかりやすく、具体的であることも好ましい点である。技巧、表現の幅はあるが、おおむね理解しやすい表現であり、見る喜びも大きい。今後の発展をいっそう期待したい。

●……………

第 8 回あきる野市絵画展「入賞作品」

☆最優秀賞 No.15 「在りし日の牛柀」油彩 P30 羽村伊左雄（羽村市）

《吉岡正人審査員講評》

しっかりとした地塗りの上に高い技量で描き込まれた傑作である。何ら特別なものもないこの景色の中に「美」を見出した美意識に作者の独自性も感じて好ましく思った。名所旧跡をモ

チーフにすると案外作者の美意識が出づらく、説明的で凡庸な作品になってしまうものだ。

作品としても色彩的な強さやタッチによる厚みや勢いではなく、静かで落ち着いた表現になっている。それでいて薄っぺらな印象にならないのは地塗りの効果と作者のデッサン力によるものだ。



総合的な力量の高さが他の作品と比して一枚上に感じ、最優秀賞になった。

《岡部昌幸審査員講評》

人物も家屋もほとんど見られない薄れ日の荒涼とした川岸。迫りあがる構造体は、河川の増水や激流を制する

ため川中に設置した三角錐の「牛柵」。かつて日本の上流に多く見られたもので、多摩に残っているとすれば、そうした自然と人々の生活の残滓であり、静かな歴史である。横長の画面に力強い構図と繊細な描写を詩情豊かで柔らかな光と色彩で包み込んだ本作は、静かなたたずまいのなかに地域の文化と歴史を雄大に取り込んでユニークです。

☆優秀賞 No.44 「桜若葉の頃」油彩 F15 萩原 茂男（あきる野市）

《吉岡正人審査員講評》

森の中の古木の持つ生命力をしっかりとしたタッチで表現した力作。木の肌の表現、地面に生えた草の表現などは秀逸である。そのような厚みのある丁寧な描き込みによって、森の中の湿気や長い間風雪に耐えたこの樹木の時間さえ感じられる素晴らしい出来栄となっている。ただ、背景の描写が樹木の描写に比して手数が足りないように感じる。特に左右の背景が分離して感じられること、左手の背景の遠景部分の描写にはもう一工夫欲しいところだ。この作者は2点出品でもう1点も良い出来だった。そちらの方が欠点は少なく完成度は高かったかもしれなかったが、この樹木の作品の方が欠点はあっても魅力が大きかった。絵画は欠点がどれほどあろうとも魅力が大きければ作品として人を惹きつけるものだ。



《岡部昌幸審査員講評》

桜の大木と思われるが、花が満開のころではなく、その直後の幹の根元に視線を落とし、光が回る陰影のなかで、複雑で表情豊かな樹皮や蔓を詳細に観察、表現し、若葉の一葉一葉、這い上がる下草を丁寧に追いかけて繊緻に、リズムカルに構成している。悠久の時間とともに、春に芽吹く瞬間の生命力も写し取られている。技巧と着想が秀逸である。

☆優秀賞 No.21 「秋の金松寺」 水彩 F8 山崎康雄（青梅市）



《吉岡正人審査員講評》

非常に緻密なタッチで埋め尽くされた作品。好みでいうと一番好きな作品だった。基本的な形は全て線によって囲まれ、その中を繊細な点や線で塗られているのだが、それが作者のこの風景、作品に対する思いを鑑賞者に伝えてくれる。制作することは作者の気持ちを一筆一筆の絵の具に込めて画面に封じ込めることなのだと示しているようだ。赤の色も非常に美しく、強い色だが画面に収まっている。ただ、一枚の絵として見た場合、構成に少し問題があるのかもしれない。それは、モチーフの一つ一つに魅力がありすぎて画面として均質になりどれが主役なのかわからないことかと思う。例えば点描のスーラの

作品を見て、均一に塗られていても抑揚のある画面を研究すると良いかもしれない。

《岡部昌幸審査員講評》

古刹の裏の日本庭園に広がる竹林、竹垣と石垣、石碑。緑いっぱいの中に、紅葉の一本が鮮烈な色をかたどる。全画面に横溢する細かな点描の重なりと、竹の色合い、庭石の表面の模様と質感など、水彩の技巧をきわめて、独特な様式美までに昇華されている。絵を覆う光輝と空気が素晴らしく、完成度が高い。

☆秀 作No.32「おいわけの鶏」アクリル F10

森本 肇（あきる野市）

《吉岡正人審査員講評》

非常にしっかりして隅々まで描写が行き届いている作品です。中央のにわとりはきちんとデッサンが行き届いていて、ある意味欠点の少ない作品です。背景の石の上の緑も表現としてなかなか面白く、評価の高い作品です。欲を言えば、もう少し画面の中に抑揚がつけ



られるともっとよくなる作品です。

《岡部昌幸審査員講評》

テーマにオリジナリティのある作品です。あきる野市絵画展では出たことのない作品で、にわとりの描写はすごく良いです。背景は少し物足りなさを感じますが、あきる野のイメージにふさわしいいい作品です。

☆秀作 No.33 「秋川河畔農道散歩」 油彩 F8 森田 利明（羽村市）

《吉岡正人審査員講評》

非常に緻密に画面全体が描かれており、光と陰の部分の対比がとてもきれいです、特に枝などに当たっている光がとてもきれいに描かれています。

《岡部昌幸審査員講評》

あきる野周辺の風景の典型的なモチーフですが、その中ではとてもユニークで、凡庸になりやすい風景をうまく个性的に捉えていて、構成が見事な作品です。



☆秀作 No.40 「秋留台公園」 油彩 S10 藤原 純子（青梅市）

《吉岡正人審査員講評》

他の人と全く違う視点で、葉っぱを光線的に描いていて、発表慣れしている方かなと思われます。このような落とし込みの額に入れて、尚且つキャンバスの平面だけでなく、横まで描いていて、おもしろい作品です。葉っぱも大変緻密に一つ一つ描かれており、重なり合っているところもおもしろい。最初から目についた作品です。

《岡部昌幸審査員講評》

破綻のない作品で、確かに手慣れている作品です。プロっぽい、地域の特徴、自然というものを題材としてうまく構成しています。秀逸でこれまでにない作品で、絵としても構成が素晴らしいです。



☆佳作 No.3 「のらぼう畑に春が来た！」
アクリル B-2 山下裕子(あきる野市)



佳作 No.46 「多摩の西から(夕桐)」
アクリル 29×38.5 大山 学(あきる野市)



☆ 佳作 No.10 「稲架掛けの風景あきる野」
油彩 P-12 内野 信(あきる野市)



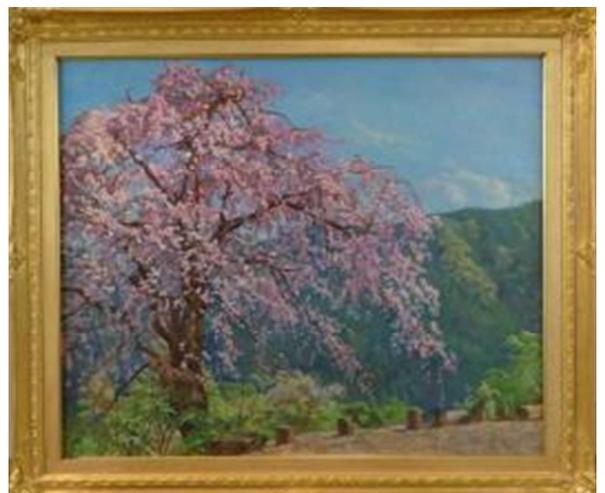
☆ 佳作 No.14 「暮れ残る空とパンパスグラス」
パステル F-10 橋本雅子(あきる野市)



☆ 佳作 No.31 「阿伎留神社 祭囃子」
水彩 41×53 石塚俊男(あきる野市)



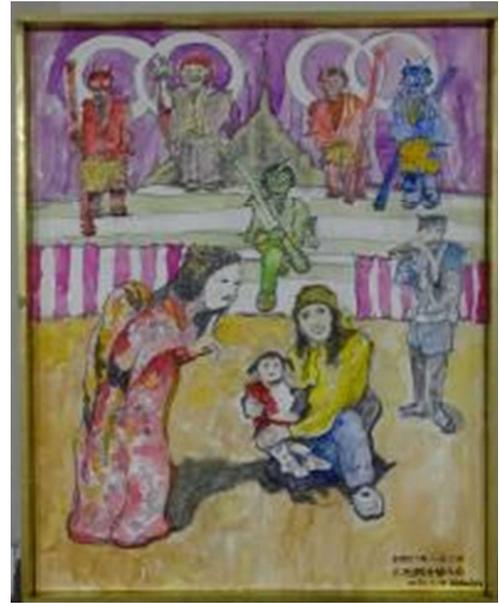
☆ 佳作 No.49 「乙津の垂れ」
油彩 F-20 神山茂久(あきる野市)



☆ 佳作 No.2 「出会い」
アクリル 30号 中村清作(あきる野市)



☆ 佳作 No.37 「大悲願寺節分会」
水彩 F-30 濱中 斉(あきる野市)



☆ 佳作 No.50 「こもれびの裏山散歩」
パステル F-10 中田 修 (あきる野市)



第8回あきる野市絵画展「入選作品」

- ☆入選 No.1 「岩場を歩く」油彩 F-12
- ☆入選 No.4 「弁天山ハイキング」アクリル 30号
- ☆入選 No.5 「古寺輝くとき (五田市広徳寺)」油彩 P-15
- ☆入選 No.6 「小峰公園の思い出」水彩 F-6
- ☆入選 No.7 「二宮神社お池を東へ」水彩 F-4
- ☆入選 No.8 「光厳寺の山桜」水彩 20号

- 在原 晟 (日野市)
- 小室 忠(あきる野市)
- 華房 実(あきる野市)
- 藤井 修(あきる野市)
- 藤井 修(あきる野市)
- 松岡 満(八王子市)

☆入選 No.9 「広徳寺の大イチョウ」油彩 F-30	草村 剛(八王子市)
☆入選 No.11 「風景」油彩 10号	藤原加代(あきる野市)
☆入選 No.12 「春の訪れ」水彩 F-10	会田洋三(あきる野市)
☆入選 No.13 「秋川溪谷」パステル F-10	橋本雅子(あきる野市)
☆入選 No.16 「拝島 日光橋」水彩 10号	正田静子(あきる野市)
☆入選 No.17 「希望の光」パステル 30号	中澤能子(立川市)
☆入選 No.18 「野の花 草花公園」水彩 P-20	久野友子(立川市)
☆入選 No.19 「Akiruno, My Love」油彩 P-30	浅葉三男(あきる野市)
☆入選 No.20 「秋の秋留台公園」水彩 F-10	小野 隆(あきる野市)
☆入選 No.22 「広徳寺山門」水彩 F-6	桑原千二(八王子市)
☆入選 No.23 「大地の詩広場」水彩 F-8	桑原千二(八王子市)
☆入選 No.24 「凧の四阿」水彩 B2	小林勝郎(あきる野市)
☆入選 No.25 「子牛の写生会」油彩 F-15	内藤光子(あきる野市)
☆入選 No.26 「THE 秋川溪谷」油彩 F-30	須田 昭(埼玉県川越市)
☆入選 No.27 「トウキョウサンショウウオ」アクリル 6号	喜屋武 零 (キャン レイ)(青梅市)
☆入選 No.28 「マジックアワー」アクリル 6号	喜屋武 零 (キャン レイ)(青梅市)
☆入選 No.29 「あきる野の獅子舞」油彩 F-20	在原久雄(あきる野市)
☆入選 No.30 「山田天神社 彼岸の頃」アクリル F-10	岩久祐子(あきる野市)
☆入選 No.34 「溪谷に夏の音響く」油彩 P-30	森田利明(羽村市)
☆入選 No.35 「武蔵五日市七福神巡り」水彩 38×30	宮野万貴子(あきる野市)
☆入選 No.36 「留原の南瓜」水彩 F-10	福田三喜(あきる野市)
☆入選 No.38 「釣り人」油彩 20号	雨宮 緋佐子(昭島市)
☆入選 No.39 「夏の終り」油彩 30号	雨宮 緋佐子(昭島市)
☆入選 No.41 「小川のサイカチ」油彩 F10号	小宮 勇(あきる野市)
☆入選 No.42 「川辺の春」油彩 P-12	坂本美郎(あきる野市)
☆入選 No.43 「金松寺にて秋思やや」油彩 F10号	萩原茂男(あきる野市)
☆入選 No.45 「小峰公園からの眺望」油彩 F-10	神山久利(あきる野市)
☆入選 No.47 「多摩の西から(川へ行く日)」アクリル 215×170	大山 学(あきる野市)
☆入選 No.48 「五日市マルかじり」油彩 F-10	濱中俊男(羽村市)
☆入選 No.51 「森林」水彩 F-8	谷 満義(青梅市)
☆入選 No.52 「秋川溪谷 (石舟橋)」水彩 F-8	谷 満義(青梅市)

(受付順・敬称略)

第8回あきる野市絵画展 出品作品（受付順）審査員コメント一覧

No.	作品名(種類)	作者	審査員コメント
1	「岩場を歩く」(油彩)F-12 	在原 晟 (日野市)	吉岡: 吊り橋を渡る人もおもしろいが、画面構想をする際に、どこを描きたいのかを画面の中心に出てくるような構成にするといいのかのかもしれませんが。癖のある絵の具の使い方をしているので、これを押し通した方がいいでしょう。 岡部: 全体的にタッチが同じで、岩場がテーマならば、岩独特の書き方とかモチーフによって筆の使い方や絵の具を変えるなどすれば、もっと良い作品になるのではないかと思います。
2	佳作 「出会い」(アクリル)30号 	中村清作 (あきる野市)	吉岡: いい作品です、獅子舞から背景にある笛を吹いている人達の距離感がとてもいい関係です。もうちょっと獅子舞の頭のところを工夫してほしい。レベルの高い作品です。 岡部: 民俗的な題材作品はいろいろ見てきた中でもユニークであり見たことのない特異な作品です。欲を言えばもう少しモチーフ、人間の顔とか獅子舞とかに強弱があるといいと思います。構成力が今ひとつ。もう少しその辺の所を研究していけばもっと良い作品になると思います。
3	佳作 「のらぼう畑に春が来た！」(アクリル)B-2 	山下裕子 (あきる野市)	吉岡: 近景のほう、鳥よけの鳥模型、遠や畑の描き方などよく描かれています。一方、山や木々の遠景が物足りない。近景と対応するような描写があるとさらに良いと思います。絵としてはすごく楽しんで見ていられる作品です。 岡部: 素朴な感じで、すごく真面目に絵に対しての気持ちが出ています。
4	「弁天山ハイキング」(アクリル)30号 	小室 忠 (あきる野市)	吉岡: 非常に忠実に手を抜かずに描いていますが、どこに一番心惹かれたのかがあいまいなために、非常に損をしていると感じます。また、基本的なところがもう少し、かっこよかったとか、きれいだったとか、印象に残ったというのが、鑑賞者の感性に訴えかけるところがハッキリ出ると全然違った評価になってくる作品です。技術的にはかなり高い人なので、焦点の絞り方をハッキリさせて、私はこのところを見てほしいといったものが重要です。 岡部: サマーランドがあるところの風景です。今まで地元の風景で、高速道路のジャンクション風景といった、自然と構造物をテーマにした作品はありましたが、これだけ見事に全体を視野に収めて、遠くの都心まで描いてある作品ははじめてです。すごくぱっと目についた作品ですが、絵の重心をどこかポイントを作っていくと良い作品になると思います。

5	<p>「古寺輝くとき (五日市広徳寺)」(油彩)P-15</p> 	<p>華房 実 (あきる野市)</p>	<p>吉岡: 少し画面全体に均一の感じがして、どこも同じくらいに描かれていて、絵の具の厚さ、堅い絵の具や柔らかい絵の具を使うとか、筆の大小を使い分けるとか。いろいろな形で抑揚が出てくるともったい作品になると思います。この絵でいうと後ろの建物の描写をもう一步強めていくといい感じになるのでは。基本的なところはできています。</p> <p>岡部: 全体としてもまとまりがあるように感じる作品です。ただ、一番どこが重要なのかをハッキリさせる必要があり、何が重要なのかを今後の研究の余地に期待します。</p>
6	<p>「小峰公園の思い出」(水彩) F-6</p> 	<p>藤井 修 (あきる野市)</p>	<p>吉岡: なかなかこれだけ水彩でさらりと描いて、川面の表現とか、こちらの落ち葉の表現とか、なかなかこんなには描けないです。ただ、これだけ描けるということベースにして考えると、目のつけどころみたいなものが、ちょっと普通なんです。</p> <p>名所絵はがきのような感じの、これは誰が見てもきれいですよという構図になっています。</p> <p>そういうものとは別に、ほかの人が見たらきれいとは言わないかもしれないけど、私はこれがきれいだ!と思うといった、もっと、自分の美意識に絞って描いていくといいのかな、ではないかと思えます。</p> <p>例えば、7番の作品で、真ん中から上は全部切っちゃって、川面だけに焦点を絞るとか、6番の作品では、上のほうの紅葉のものではなくて、ここの石と落ち葉だけに焦点を絞るとかすると、ほかの人が描かないものになってくるので、そこ、そういう自分独自の美意識、ほかの人は何とも言わないだろうけど、ここに自分は焦点絞りましたというところがあると結構面白い、これだけ描けるのだから、何か絞り切っていくといいのではないかと思えます。</p> <p>岡部: ちょっと描き込み過ぎてると感じがします。特に線ですかね、輪郭線とか陰影がかちかちと全部描いているという、描きすぎています。本当は暗示するようなところは描かずに、暗示して形や線とか、いろんなことを思わせるっていう。そういうのが、歴史的な名画家は、そういう描き込み過ぎないで描いてきてるんですが、そこがちょっと描き込み過ぎてるのが、少し語弊があるかもしれませんが、少し素人っぽさが残ってるっていう感じです。これはこれ自分の世界で貫き通すならそれでいいと思うんですけど。というふうに思いました。</p> <p>色の出し方をもう少し研究したほうがいいのではないかと感じました。さっき線をはっきり描き過ぎてるとか言いましたが、色の出し方は割と当たり前な感じなんです。もう少し複数の色で組合せて、重ねたり、響かせたり、描かなかったり、そういう自由自在なテクニックっていうのがあると、より狙ってる作品のテーマが浮き立つんじゃないかなと思えます。</p>
7	<p>「二宮神社お池を東へ」(水彩) F-4</p> 	<p>松岡 満 (八王子市)</p>	<p>吉岡: こういう大きな樹木の場合は、根が地面の中に入っている感じを描くと重量感が出てくると思うんですね。</p> <p>そのあたりをちょっと曖昧にしちゃってるので、もう少しあのあたりに木の上のほうと同じくらい根は張ってるもんですから、ぐっと入っていったる感があるといいのかな。</p> <p>岡部: 山桜の豪華な感じというか、その生命力というのはすごく前面にあふれていて、それが魅力なんです。随分経験があるんじゃないかと思うので、水彩のもう少し技法的な厚みといいますか、筆の使い方や筆の選び方、あと、枝と葉っぱ、花と地面っていうか、それは違うものなのでその書き分けもあってもいいのではないかと思えます。</p> <p>ただ全体としてのイメージを一つ表現したいという、そのテーマはあらわれていると思うので。ちょっとその辺を、技巧をもう少しアップすればもったいいのではないかと思いました。</p>
8	<p>「光厳寺の山桜」 (水彩)20号</p> 	<p>松岡 満 (八王子市)</p>	<p>吉岡: こういう大きな樹木の場合は、根が地面の中に入っている感じを描くと重量感が出てくると思うんですね。</p> <p>そのあたりをちょっと曖昧にしちゃってるので、もう少しあのあたりに木の上のほうと同じくらい根は張ってるもんですから、ぐっと入っていったる感があるといいのかな。</p> <p>岡部: 山桜の豪華な感じというか、その生命力というのはすごく前面にあふれていて、それが魅力なんです。随分経験があるんじゃないかと思うので、水彩のもう少し技法的な厚みといいますか、筆の使い方や筆の選び方、あと、枝と葉っぱ、花と地面っていうか、それは違うものなのでその書き分けもあってもいいのではないかと思えます。</p> <p>ただ全体としてのイメージを一つ表現したいという、そのテーマはあらわれていると思うので。ちょっとその辺を、技巧をもう少しアップすればもったいいのではないかと思いました。</p>

9	<p>「広徳寺の大イチョウ」(油彩) F-30</p> 	草村 剛 (八王子市)	<p>吉岡: 銀杏の黄色い色はこれでいいのかもしれないが、銀杏の葉っぱらしきが見られない。もう少し描写したいところとガンガン絵の具を塗るところとがあるといいと思います。銀杏を見たときに感じてたことを表現しようとしたんだと思いますが、もう少し描写した感じがほしいです。 岡部: 絵に特別な個性がないという感じがしました。</p>
10	<p>佳作 「稲架掛けの風景あきる野」(油彩) P-12</p> 	内野 信 (あきる野市)	<p>吉岡: この作品は、刈られた穂や地面の畝の部分、干されているところと、その向こうの数軒の家があって何か燃やして煙がたなびいていたりしている所はすごくいいと思います。ただ、バランス的に空の部分が多すぎて、画面全体で見ると上の方が物足りないと感じます。下の部分に負けてしまう。作品としてはいい作品。 岡部: 色といいタッチといい、良くまとまりがあり、経験があると感じる方の作品です。</p>
11	<p>「風景」(油彩)10号</p> 	藤原加代 (あきる野市)	<p>吉岡: 特にドラム缶の色とかが面白いです。 この黒い線でぐいぐい書いている感じがすごく効果的で面白いと思います。 右側の塔、左側の錆びたタンクか何なんか、大きい格好いいものとそれから真ん中のちっちゃいドラム缶とみんなきちっと入り過ぎているので、どっかにもう少し焦点を合わせて、描いた人自身が面白いですよっていうところが見えてくるといいんだろうと思います。 この表現のやり方自体、描き方自体がすごく面白いと思いますので、この方向で悪いことはないです。欠点にはならないと思いますので。何かこれだけ力強く描けるので、一つのをがちっと描くということから始めてもいいのではないかと思います。 岡部: 多摩の自然にはよくこのような工場とか、産廃とは言わないけど工場があって、時々見かける場所で、そういう地域性はよく出ていると思うのですが、雑木林と何か工場というか、いかにも多摩の実際ある面白い風景だと思います。1番しっかりとした構図の主軸というのかがはっきり描かれてないような気がします。 だから、いま一つ力強さが感じられない作品です。</p>
12	<p>「春の訪れ」(水彩) F-10</p> 	会田洋三 (あきる野市)	<p>吉岡: この建物はすごくよくかけていて、しっかりしていると思います。それに梅が咲き始めるところの描写と対比させようということですが、若干分かって描いていると思います。梅のほうの描写が画面の中心というわけにはいかないというか、描写の内容的にもそれから大きき的にも位置的にも、むしろ後ろの建物のほうが明らかに主役になるべきだけど、それが主役になるのを梅の強い白がちょっと邪魔してる感じがあります。かなりしっかり描ける人なんだけど、焦点の絞り方を今回はちょっと失敗しているのではないかと感じます。 岡部: この方の場合、特に建物が主役ですので、建築のパーズ、しかも白壁に木材というかそれに直線が出てますので、そこはねしっかりとドーンと書いたほうがいいんじゃないかなって思います。 そこがしっかりすれば絵が大分違ってきますので。この絵の場合は水彩の魅力プラス、黒い線が魅力的だから、ここはそういう線をしっかりと出せばいいと思います。 一つ前の作品では透視図法のことをいいましたが、それよりもいろんな響き合いがすごく美しいので、よく描けていると思います。</p>

<p>13</p>	<p>「秋川溪谷」(パステル)F-10</p> 	<p>橋本雅子 (あきる野市)</p>	<p>吉岡: 佳作に入った 14 番の作品のほうが構成がすごく分かりやすいです。明るい部分と影の部分とがぴっきり分かれて、見たときに抑揚があっさりきれいなあつていう感じます。</p> <p>狙いがすごく分かる感じの作品ですので、もうぱっと見たときに、こういうこと書きたいなっていうのが分かりますし、このパンパスグラス、すすきなのかな、その描き方も非常に、緻密に見えています。</p> <p>13 番の溪谷の絵の作品も同じように緻密に描いているのだと思いますが、緻密に見えない。そういう意味では、14 番の画面の構成とかモチーフの選び方が、まずすごくよかったんだと思います。</p> <p>岡部: 2 つの作品とも、何か、独特な寂寥感というものがある面白いなあと思いました。普通の風景を描いているようであつて、そういう情感とか感情を込めたっていうのは分かる気がしました。</p> <p>佳作になったほうは、下から見上げてるようなあつた感じが、見上げた空が動く効果をよく出していると思いますね。</p>
<p>15</p>	<p>最優秀賞 「在りし日の牛柵」(油彩)P30</p> 	<p>羽村伊左雄 (羽村市)</p>	<p>《吉岡正人審査員講評》</p> <p>しっかりとした地塗りの上に高い技量で描き込まれた傑作である。何ら特別なものもないこの景色の中に「美」を見出した美意識に作者の独自性も感じて好ましく思った。名所旧跡をモチーフにすると案外作者の美意識が出づらく、説明的で凡庸な作品になってしまうものだ。</p> <p>作品としても色彩的な強さやタッチによる厚みや勢いではなく、静かで落ち着いた表現になっている。それでいて薄っぺらな印象にならないのは地塗りの効果と作者のデッサン力によるものだ。</p> <p>総合的な力量の高さが他の作品と比して一枚上に感じ、最優秀賞になった。</p> <p>《岡部昌幸審査員講評》</p> <p>人物も家屋もほとんど見られない薄れ日の荒涼とした川岸。迫りあがる構造体は、河川の増水や激流を制するため川中に設置した三角錐の「牛柵」。かつて日本の上流に多く見られたもので、多摩に残っているとすれば、そうした自然と人々の生活の残滓であり、静かな歴史である。横長の画面に力強い構図と繊細な描写を詩情豊かで柔らかな光と色彩で包み込んだ本作は、静かなたたずまいのなかに地域の文化と歴史を雄大に取り込んでユニークです。</p>
<p>16</p>	<p>「拝島 日光橋」(水彩)水彩 10号</p> 	<p>正田静子 (あきる野市)</p>	<p>吉岡: 透明水彩の技法としてはこれなかなかうまく表現できています。日光橋というのか、何かその辺りがもう少ししっかりしてほしいのと、川面の部分の水の部分、ちょっと魅力があるといいのになあつていう感じがします。</p> <p>大きな欠点はないのですが、ここを見てほしいっていうところもう一つ感じられない部分があるます。</p> <p>岡部: タッチと陰影を巧みに使って、光と影が乱舞するっていうのか、それから季節の感じがすごくうまく出て、水の反映も非常にきれいなんですけれども。ほかの方々もそうなんですけれども、透視図法って遠近法で単純で、必ずしも正確ではないっていうところがあります。</p> <p>これは 1 点透視図法ですが、そういう固定観念をとりはらって、もう少し歴史的な絵画、水彩画だったらターナーとかいろんな日本の水彩画家の作品もたくさんありますので、そういう実際の作品を見て勉強すると絵のつくり方というか構図のつくり方をもう少し研究すると、絵が魅力的に見えるのではないかと思います。</p> <p>ただ、この作品はタッチと色合いとか、それがすごく魅力的です。</p>

17	<p>「希望の光」(パステル)30号</p> 	中澤能子 (立川市)	<p>吉岡:表現はすごく面白い表現になってると思います。太陽とそれから水に映っている太陽の表現というのは、ある意味、非常に抽象性が強い表現になっていて、それと真ん中の部分の具象性の強い岸辺の部分の表現が面白く言えば面白いが、少し組合せが悪いという感じもします。岸辺の部分の描写がもう少し違う描写でもよかったのかなという気がします。全体として表現力の強い作品になってると思います。</p> <p>岡部:タイトルそのままのような作品で、これだけ太陽とその反映というものに、ポイントを置いて描いた絵というのはまだ見たことがないので、ちょっと独特な虹という表現になっています。</p> <p>批評を超えたメッセージが伝わってくるので、そのメッセージ性がいいと思いました。</p>
18	<p>「野の花 草花公園」(水彩)P-20</p> 	久野友子 (立川市)	<p>吉岡:この近景の赤い花の部分で、一つ二つ、もう少ししっかりと描写した部分があってもよかったなと感じました。白い花の部分も、少し何て言うか、絵具のつけ方とか何とかで、描き方っぽくなっちゃってるので、もう少し、もう一歩ちょっと、しっかりとした表現になっていくといいと思います。画面全体としてはすごく描き慣れて、しっかりとしたバランスのよい作品になっています。この作品としては、このバランスでいいとは思いますが、これをもう一段上に持っていきたいとしたら、そういう一つ一つの花の描写の部分も、もう少しレベルを高くするなど考えたほうがいいかと思います。</p> <p>岡部:以前、こういう水彩で花の絵がたくさんあったので、そういう意味では延長のような気がしました。新鮮味ということでは少なかったんですが、今回は似た作品が余りないことから、狙いも分かるし、好ましいけれども、あえて言うと近景の1番近いところの花の表現のまとめ方があるのではないかと思います。</p>
19	<p>「Akiruno, My Love」(油彩)P-30</p> 	浅葉三男 (あきる野市)	<p>吉岡:空の書き方や川の書き方が印象的な作品です。川がうねって生物的なものになっている感じがします。それが印象的におもしろい。いろいろなどにおもしろいところがいっぱいあるので、これをもっと焦点を絞って行って、この不思議な面白さを前面に出すとか、もっと自然に持つて行くのかを考えた方がいいかもしれません。</p> <p>岡部:これは、不思議な感じでいいですが、もうちょっと表現力を高めるといいんだと思います。</p>
20	<p>「秋の秋留台公園」(水彩)F-10</p> 	小野 隆 (あきる野市)	<p>吉岡:この作品は、犬のところがやはり主役なんでしょうね。もっとそこに焦点を当てて描いてもよかったのかもかもしれません。</p> <p>特に、ちょっと足踏ん張っている黒い右側にいる犬の描写は、犬はこういうしぐさをやってるとするのがすごくよく分かって、犬3匹の在り方の面白さというのはすごく共感できる部分です。</p> <p>だから、それもその割にはそれが画面の中心にはきていないので、何となく脇役っぽく見えてしまっていますが、あそこをもっと見せてもいいのではないかと思います。犬が3匹でちょっとお互いに牽制してるところや入ってくれなくて困っているようすが分かり、そういう意味でも、いい感じにできるような気がします。</p> <p>岡部:吉岡先生がおっしゃったとおりだと思いますが、犬の近景のところをもっと大きく扱って大きくするっていうやり方もあるし、遠近をはっきりするっていうのもあるとは思いますが、ただ、このような構図がよかったのであれば、その場合は、せめて犬をしっかりと見せるようにもうちょっと描いたらいいのではないかと思います。でも、テーマはとて面白いと思います。</p>

21	<p>優秀賞 「秋の金松寺」 (水彩)F8</p> 	山崎康雄 (青梅市)	<p>《吉岡正人審査員講評》 非常に緻密なタッチで埋め尽くされた作品。好みでいうと一番好きな作品だった。基本的な形は全て線によって囲まれ、その中を繊細な点や線で塗られているのだが、それが作者のこの風景、作品に対する思いを鑑賞者に伝えてくれる。制作することは作者の気持ちを一筆一筆の絵の具に込めて画面に封じ込めることなのだとししているようだ。赤の色も非常に美しく、強い色だが画面に収まっている。ただ、一枚の絵として見た場合、構成に少し問題があるのかもしれない。それは、モチーフの一つ一つに魅力がありすぎて画面として均質になりどれが主役なのかわからないことかと思う。例えば点描のスーラの作品を見て、均一に塗られていても抑揚のある画面を研究すると良いかもしれない。</p> <p>《岡部昌幸審査員講評》 古刹の裏の日本庭園に広がる竹林、竹垣と石垣、石碑。緑いっぱいのなかに、紅葉の一木が鮮烈な色をかたどる。全画面に横溢する細かな点描の重なりと、竹の色合い、庭石の表面の模様と質感など、水彩の技巧をきわめて、独特な様式美までに昇華されている。絵を覆う光輝と空気感が素晴らしく、完成度が高い。</p>
22	<p>「広徳寺山門」 (水彩)F-6</p> 	桑原千二 (八王子市)	<p>吉岡:しっかり描こうとしているということは、すごくいいのですが、細かい描写にどんどん入っていくと、重量感をなくすときがあります。描写をした後にもう1回大きな骨格をしっかり見直すとこの建物の重量感が出てくるのかなと思います。描写が説明的になると、薄くなって軽くなってしまいます。</p> <p>それをいかにうまく抑えながら、大きな重量感みたいなものと描写とを両立させるかということなんでしょうけど。しっかり描いているので、そういう意味では、これだけ描写していくと描く力はどんどんついていくと思います。この作品自体は、そういう意味ではすごく勉強になった作品だろうなと感じました。</p> <p>岡部:これ山門ですね、山門というのか、この雰囲気はすごくよく出てる。</p> <p>そういう雰囲気がよく出ててすごく好ましいと思いますけれど。建物の前後左右の空間をはっきりと意識して、それを位置づけて、立体的にもう少しかければもっとよくなるんじゃないかなと思います。</p>
23	<p>「大地の詩広場」 (水彩)F-8</p> 	桑原千二 (八王子市)	<p>吉岡:描写力があって、パースという意味ではかなりしっかりと描かれている作品だと感じます。自動車の描写なんかかなりしっかりしています。</p> <p>ただ、これを描きたかったのかどうかわかりませんが、右側のこの彫刻と背景の建物とか、ちょっと相殺し合ってるというか、どちらが主役か分かんなくなってしまうています。</p> <p>その辺り、どこを描きたかったのかという意味でいうと、もう全体的にここもそこも全部きちんと描きましようという感じになっています。この状況からいうと、手前側のこの彫刻っていうのは、影の中に入ってしまった感じがするので、ここまで影ということは、これをシルエット的にしたほうが、背景の建物がもっとしっかり見えてきていいのかなっていう気はします。</p> <p>その辺りのバランスをどうとっていくかっていうことだと思います。</p> <p>岡部:この現代彫刻や公共空間の建築などモチーフは非常に面白いですし、その組合せも大変面白いです。広場の中でしっかり描かれていると思うのですが、この水彩の魅力の色の豊かさとか、色のかけ合いとか色の発色の出し方というのか、もうちょっとそういうところに魅力があっ</p>

			<p>もいのではないかと思います。細かな描写というところばかりに気をとられ、もう少し色を豊かに出すというか、ポイントを言えば、空の表現が単調だったり、単調でも色が魅力的であればいいんだけど色の魅力がいま一つかなと感じます。もっと色の美しさを出したほうがいいかもしれません。</p>
24	<p>「凧の四阿」(水彩)B2</p> 	<p>小林勝郎 (あきる野市)</p>	<p>吉岡: 水のところの表現について、若干、水の水平面がきちっと出てない感じがします。でも、そこはそこで、魅力的でいいのかなと思います。画面の上のほうの木の描写と右上のほうに山のようなものが緑で見えてるやつが重なってるんですが、あそこであんなふうに重なったら左側のほうにちょっと緑が出てこないのかなぜだとか、いくつかあれっ?と思うところはあります。</p> <p>全体としては色的な、色が薄くなってるという、夕方か何かで、ちょっと光が弱くなってきている時間帯の色の感じに見えて、色自体は美しいと思います。</p> <p>岡部: なかなか大きな水彩画で立派です。意欲的な構成で、特に水面の波紋とその光の映り込みっていうのが狙いかな?そこに美しさがあると思いますけれど、建物の描写がしっかり観察してないのではと感じます。観察しても、筆と絵の具の置き方っていうのが、よく観察してないような気がします。</p>
25	<p>「子牛の写生会」(油彩)F-15</p> 	<p>内藤光子 (あきる野市)</p>	<p>吉岡: これも上部10センチぐらいのところはやっぱあまり楽しくないと思います。下のほうはすごくいいんです。ただ、遠景が何だかよく分からない。</p> <p>あのあたりは本来描かなくてよかったのではないかと思います。上10センチぐらいを切ってしまうと、手前からのすごく魅力的に描けている部分がクローズアップされていいのではないかと思います。</p> <p>牛の世話をする人とか、手前側の女の子たちの背中描写がすごくきれいです。</p> <p>そこをもっと画面の中で大きく入れていければもっといい作品になるのではないかと思います。</p> <p>岡部: 題材は好ましくてほほ笑ましく、ユニークだと思うんですけど、遠景の処理ってなかなか難しいですね。</p>
26	<p>「THE 秋川溪谷」(油彩)F-30</p> 	<p>須田 昭 (埼玉県川越市)</p>	<p>吉岡: 秋川溪谷ですね、絵の具の付き方とか、何かタッチとか色の感じとかすごく絵画的で面白いですが、何が描いてあるかちょっと分かりにくいです。あまり説明的になる必要もないんですが、もうちょっとこの画面の骨格がしっかりしてくると、今のこの絵の具の付き方が魅力的な部分をもっとよく見えてくるのではないかなという感じがする作品です。</p> <p>岡部: 狙いは面白いですが、中心となるものの表現というのがはっきりしない作品です。</p>
27	<p>「トウキョウサンショウウオ」(アクリル)6号</p> 	<p>喜屋 武零 (キャンレイ)(青梅市)</p>	<p>吉岡: 2点ともおもしろいけれど、2点を横に並べた時の相乗効果があまり感じられない。2点並べたときに、もう少しこういことが言いたいということがハッキリと出てくる方がいいではないか。私としては、サンショウウオの方がおもしろい作品だと感じました。もう一つの作品にもサンショウウオが描いてあったら、評価が上がったような気がします。</p>

28	「マジックアワー」(アクリル)6号 		岡部:色を出したいというか、色を楽しんでいることは分かります。効果が出ています。サンショウウオの方は、色の上に線でサンショウウオを描いています。2つの作品もそれぞれ呼応している。マジックアワーの方も線があった方が良かったのかもしれない。いろいろ模索して、いろいろなことを考えているのが分かる作品です。それなりに味があり、本格的な作品にすると、評価が高くなるかもしれない作品です。
29	「あきる野の獅子舞」(油彩) F-20 	在原久雄 (あきる野市)	吉岡:スピード感というか、動きのダイナミックさはすごく感じました。あとは主演と脇役の差がもう少しあってもよかったのかと思います。この獅子が主演だ、というところに、もう少しはっきりとした描写があつたりとか、こういう2、3人の獅子頭をつけた人たちが描かれているのだけれど、3つの獅子が、1、1、1で並ぶより、1対2でつながって1のほうを主演にするとか、そういう何か工夫があるととってもよくなったと思います。岡部:何かスピード感が出て。動きと光、という運動がすごく回転していくというのが、これは面白い表現だなあとと思います。
30	「山田天神社 彼岸の頃」 (アクリル)F-10 	岩久祐子 (あきる野市)	吉岡:すごく真面目な感じがする作品です。きちんと描いているのですが、ここまで描いているんだけど、もう少しきちんと描くところと若干残すところを出していけるといいのではないかと思います。これだけしっかり描いているのでもう少し技量を上げていただければ、なお良くなると思われます。岡部:花と神社社殿が呼応している、意欲が感じられる作品です。
31	佳作 「阿伎留神社 祭囃子」(水彩) 41×53 	石塚俊男 (あきる野市)	吉岡:提灯の栄町っていう字が格好いいですよ。岡部:これ夜の祭風景ですよ。すごく、夜の光がすごく印象深い作品です。鮮烈な印象で、描写も本当に近寄ってよく見たくなるような、見事じゃないかなと思って。すごく作品として魅力です。(佳作ですね。)もっと上位の賞になってもおかしくはなかったんですが、ほかの上位の作品はそれなりの魅力が別にありますので、でもいい作品でよくできてます。
32	秀作 「おいわけの鶏」 (アクリル)F10 	森本 肇 (あきる野市)	吉岡:非常にしっかりして隅々まで描写が行き届いている作品です。中央のにわとりはきちんとデッサンが行き届いていて、ある意味欠点の少ない作品です。背景の石の上の緑も表現としてなかなか面白く、評価の高い作品です。欲を言えば、もう少し画面の中に抑揚がつけられるともっとよくなる作品です。岡部:テーマにオリジナリティのある作品です。あきる野市絵画展では出たことのない作品で、にわとりの描写はすごく良いです。背景は少し物足りないが、あきる野のイメージにふさわしいいい作品です。

33	<p>秀作 「秋川河畔農道 散歩」(油彩)F8</p> 	森田利明 (羽村市)	<p>吉岡:非常に緻密に画面全体が描かれており、光と陰の部分の対比がとてもきれいです、特に枝などに当たっているが光がとてもきれいに描かれています。 岡部:あきる野周辺の風景の典型的なモチーフですが、その中ではとてもユニークで、凡庸になりやすい風景をうまく個性的に捉えていて、構成が見事な作品です。</p>
34	<p>「溪谷に夏の音響く」(油彩) P-30</p> 	森田利明 (羽村市)	<p>吉岡:秀作に入った作品よりも作者は力を入れている作品だと感じます。若干普通に見えてしまう所もあるが、この中のどこかに絞っていけば、普通に見えるようだけど普通でないような作品になると思います。 岡部:細かなことをいうと、白い波、テントとか、だんだん雲とかが単調というか、期待する細密な技巧的にやや研究する余地があるのではないかと感じます。</p>
35	<p>「武蔵五日市七福神巡り」(水彩) F-10</p> 	宮野万貴子(あきる野市)	<p>吉岡:のぼりにも七福神と書いてあります。お堂の格子の部分なんかすごくきれいだし、そこに立札が立ってたりとか、のぼりが立ったりするところの描写もすごくいいと思いますが、意外とこの屋根の上の赤っぽいところの描写が雑に感じてしまいます。それと空の描写も少し絵の具っぽさがでてしまい、すごく損してる感じがします。だから、表現のすごくできてる部分と、ここの線が入ってたりとか、こっちの形とかすごくよくできてるのになあっている感じがします。この人物の顔もどうかという感じがします。いいところももう一つ表現されてない部分とかの両方が画面の中にあって、もったいない感じがしました。 岡部:テーマと構想は大変ユニークだと思うんですが、人物も全体の中に、こうしたふうに描きたいというなら分かるけれど、影のところが非常に曖昧だから、影を描こうとしてるんだと思いますが、何か細かなところの観察と技巧と表現を高める必要があります。高めれば狙いがねもう少し浮かび上がってくると思います。</p>
36	<p>「留原の南瓜」(水彩) F-10</p> 	福田三喜(あきる野市)	<p>吉岡:この作品は、縁側の向こうの背景に、ぱちぱちと緑がありますが、ここにもう少し何かがあるといいと思います。ものを描かなくても、いい描写の仕方があるんじゃないかという気がします。 手前側が魅力的なだけに、そこら辺をどういうふうを描くかというのはすごく絵の上では重要なポイントなんだろうと思います。 ただ、手前側は結構面白いです。足の描写などいいと思いました。 岡部:人物の描き方は面白いですね。特に顔とか表情っていうのは独特なものがあって、ほかの人には描けないのではないかと思います。 それに対して、カボチャが何か形がはっきりしないというか、その形の描写の巧拙を問うとかは全然問題ではなく、技巧以上のものがあって表現なんですけど、ほかの周辺のところが顔の面白さと同じようなものが出てないような感じがします。 このカボチャの絵の場合は本当に表情が面白くていいです。</p>

37	<p>佳作 「大悲願寺節分会」(水彩)F-30</p> 	濱中 斉 (あきる野市)	<p>吉岡: 透明に塗ってる絵の具のシミみたいになってるところとか、分厚く塗っているのではない半透明な画面の表現自体が一つの魅力になってます。 そういう意味で、ほかの作品とちよっと違った、下のキャンバス地の白が生かされている表現で、その分、発色がすごくきれいになっています。一つ一つの色は強い色を使っているわけではないものの下の白が生きてる分だけ、表現として新鮮に見えることが、この絵の魅力ではないかなと思います。 岡部: これはユニークな表現といえますか、鉛筆も使って、そのタッチといろいろ絵の具の染み込ませ方とかいろいろな技巧的なことやテーマや何かユニークですよね。練度を高めるといよりは、自分のやりたいようにするという気がしたので、自由に自分のやりたいようなテーマを追求していることで、好ましいかなと思います。</p>
38	<p>「釣り人」(油彩)20号</p> 	雨宮緋佐子(昭島市)	<p>吉岡: 「釣り人」の方は若干書き込みが足りない、未完成感があります。構図等はこのままで良いのですが、もう少し人間のほうをしっかり描く必要があります。 「夏の終わり」の方は、しっかり描かれているものの、何を書きたかったのかがはっきりしない、同じような力で描かれているような気がします。一般的に、風景を描くときには、どこかに焦点をあてて自分で自分の胸にどこを描きたいのかを留めておく必要があります。写真と違って一瞬ではないので、時間がたつ毎に、これも描きたい、あれも描きたいとなってしまう、均一に平凡になりがちで、描きすぎになってしまうことが多いですね。 岡部: これもあまり見たことのないようなユニークな作品ですね。画風はおもしろい、若干間延びしている感じがします。</p>
39	<p>「夏の終り」(油彩)30号</p> 		
40	<p>秀作 「秋留台公園」(油彩)S10</p> 	藤原純子 (青梅市)	<p>吉岡: 他の人と全く違う視点で、葉っぱを光線的に描いていて、発表慣れしている方かなと思われま。このような落とし込みの額に入れて、尚且つキャンバスの平面だけでなく、横まで描いていて、おもしろい作品です。葉っぱも大変緻密に一つ一つ描かれており、重なり合っているところもおもしろい。最初から目についた作品です。 岡部: 破綻のない作品で、確かに手慣れている作品です。プロっぽい、地域の特性、自然というものを題材としてうまく構成しています。秀逸でこれまでにない作品で、絵としても構成が素晴らしいです。</p>
41	<p>「小川のサイカチ」(油彩)F10号</p> 	小宮 勇 (あきる野市)	<p>吉岡: これもちよっと8割感があります。 もう少し表現したいところに、タッチを入れてしっかりと描いていくといいと思います。まだ描けるでしょう? という感じがします。 そうすると、自分が何を描きたかったか、もっと迫っていったんじゃないかなという気がします。 岡部: これも構図を何かうまく収めようとして、何というか動きが足りなくなってしまうようで、もっと躍動的な構図というのがあったほうがいいような気がします。枠の中に収めてるだけと感じてしまいます。</p>

42	「川辺の春」(油彩)P-12 	坂本美郎 (あきる野市)	吉岡:すごくいい感じに描けているんですけども、若干均一なので、背景がこれであって、ここに何か主役になるものが現れるとすごくよくなると思って見てました。遠景の描写とか近景の描写とか、一つ一つの描写には問題はないんですけども、どこかすごく魅力的な部分が出てくるともつよい作品になると感じます。 岡部:この作品の場合は近景がもうちょっと強くかけてればいいかなと思います。山の影の色なんかすごく印象深いです。
43	「金松寺にて秋思やや」(油彩)F-10号 	萩原茂男 (あきる野市)	吉岡:2点描いてくれた作品の中で、小さいほうの作品なんですけど、そつのない描写という意味ではこちらの作品のほうが意味完成度が高かったのかもしれませんが、少し表現が弱い感じがしました。 優秀賞になったもう1点は、桜の木の幹をドーンと描いていて、強い表現になっていて、そちらのほうが魅力的と感じました。逆に言うと、優秀賞になった作品のほうが、背景の部分の描写にマイナス点がいくつかありました。ただ、得点と失点という意味では、得点の力が大きくて、最終的にはやっぱり得点の力が大きい作品が勝つような気がします。 欠点なんて幾らあっても大丈夫なんですよね。魅力的な部分があれば。 岡部:この作品は、真ん中の大きな木と、庭の植え込み、建物をうまく構成しています。そうした狙いが面白いと思います。あと光も印象的でいい作品です。
44	優秀賞 「桜若葉の頃」(油彩)F15 	萩原茂男 (あきる野市)	<<吉岡正人審査員講評>> 森の中の古木の持つ生命力をしっかりとしたタッチで表現した力作。木の肌の表現、地面に生えた草の表現などは秀逸である。そのような厚みのある丁寧な描き込みによって、森の中の湿気や長い間風雪に耐えたこの樹木の時間さえ感じられる素晴らしい出来栄となっている。ただ、背景の描写が樹木の描写に比して手数が足りないように感じる。特に左右の背景が分離して感じられること、左手の背景の遠景部分の描写にはもう一工夫欲しいところだ。 この作者は2点出品でもう1点も良い出来だった。そちらの方が欠点は少なく完成度は高かったかもしれなかったが、この樹木の作品の方が欠点はあっても魅力が大きかった。絵画は欠点がどれほどあろうとも魅力が大きければ作品として人を惹きつけるものだ。 <<岡部昌幸審査員講評>> 桜の大木と思われるが、花が満開のころではなく、その直後の幹の根元に視線を落とし、光が回る陰影のなかで、複雑で表情豊かな樹皮や蔓を詳細に観察、表現し、若葉の一葉一葉、這い上がる下草を丁寧に追いかけて細緻に、リズムカルに構成している。悠久の時間とともに、春に芽吹く瞬間の生命力も写し取られている。技巧と着想が秀逸である。
45	「小峰公園からの眺望」(油彩)F-10 	神山久利 (あきる野市)	吉岡:ここまでは大きな間違いもなくしっかり描けてるので、この後もう少し描写するところは描写して行って、自分がここがきれいだと思ったところに焦点を当てていけると、作品としての完成度が上がってくると思います。何か8割ぐらいで、終えてるっていう感じがします。 岡部:真ん中の木が、何かもうちょっとしっかり描いてもいいんじゃないかな、あんまり構図の中ではっきりと考えないで、構図の中に収めちゃってるっていうか、真ん中にある木をしっかり描くべきんじゃないかなと思います。

<p>46</p>	<p>佳作 「多摩の西から (夕桐)」(アクリ ル)29×38.5</p> 	<p>大山 学 (あきる野 市)</p>	<p>吉岡:とにかくうまいです。常にこれくらいのものが描けるような作家だと思えます。風景を見てそのままを描写するだけでは飽き足らなくなっているのではないかと感じます。今後、レベルの高い作品、いろいろな作家の絵を観て、参考にしながら進めていってほしい。技術的にはほぼ問題ないレベルの作品です。 岡部:遠くから見ると非常に完成度の高い、リトグラフのような絵で、レベルが高いです。</p>
<p>47</p>	<p>「多摩の西から (川へ行く日)」 (アクリル)215× 170</p> 	<p>濱中俊男 (羽村市)</p>	<p>吉岡:人物のデッサンはすっきり見えます。 背景のフレア五日市の描写と人物の描写がもう少し組み合ってくるといいと思います。 1番左上のところの、恐らく空だと思われるような、あそこはちょっと、きちっと塗り込めちゃったほうがいいかなという気がします。今回人物画が少ないので、そういう意味では非常に目立ちます。背景の建築物の構造体が見えてるので、何か空間の表現とか、都市像とかが目立っちゃっていて、ちょっとその辺がね怪しげな気がするんです。 向かって右側の建築物のほうは、本人もある程度楽しんで描いている感じがありますが、左側のところが怪しげなんです。 岡部:生活の中の肖像という分野があって、僕はこのような背景と人物の構成という組み合わせは、余りほかには見たことがないので、生活とか、この人のいろいろな背景とかがすぐ分かって、好ましいんじゃないかなと思います。 少し難しいものを選んでしまっているかなという気がします。 もう少し、破綻がない構図を考えたほうがよかったかもしれませんね。 このような構造物を描くのは難しいと思います。</p>
<p>48</p>	<p>「五日市マルか じり」(油彩)F-10</p> 	<p>神山茂久 (あきる野 市)</p>	<p>吉岡:抑揚もあって欠点がほぼない。非常にしっかりとした描写だと思えます。 写生を中心に描いていって、これだけしっかりかけるっていうのは、なかなか力のある人だと思えます。 岡部:これはよく描けてるんじゃないかなと思いました。伝統的な描き方ですね。気になるところは1番手前の何ていうのか、道か庭の端の堤みたいなどころ、1番手前の近景ですか、そこがいま一つはっきり描かれてないか、よく分かってない感じがします、何であるかを、何を描こうとしてるのかははっきりするともっと良い。近景であるということもよく分からないです。桜から向こうはいいと思います。</p>
<p>49</p>	<p>佳作 「乙津の垂れ」 (油彩)F-20</p> 	<p>神山茂久 (あきる野 市)</p>	<p>吉岡:抑揚もあって欠点がほぼない。非常にしっかりとした描写だと思えます。 写生を中心に描いていって、これだけしっかりかけるっていうのは、なかなか力のある人だと思えます。 岡部:これはよく描けてるんじゃないかなと思いました。伝統的な描き方ですね。気になるところは1番手前の何ていうのか、道か庭の端の堤みたいなどころ、1番手前の近景ですか、そこがいま一つはっきり描かれてないか、よく分かってない感じがします、何であるかを、何を描こうとしてるのかははっきりするともっと良い。近景であるということもよく分からないです。桜から向こうはいいと思います。</p>

50	<p>佳作 「こもれびの裏山散歩」(パステル)F-10</p> 	中田 修 (あきる野市)	<p>吉岡:画面の下半分のこもれびの表現がすごくきれいなんで、もうそこがこの絵の魅力で、賞に入ってるのも、そこら辺の描写すごくきれいだったのと、丸いほわほわほわとしたものと、画面の上から比較的シャープな縦の線が下がってきてるという、この対比がすごく面白い作品だと思います。</p> <p>岡部:遠景の道のところの明るい物の描写が何か単調な感じがしますので、その辺はもっと暗い部分や明るい部分があってもいいのかなと思います。</p> <p>大変表現豊かな作品だと思いますので、いいと思います。</p>
51	<p>「森林」水彩 F-8</p> 	谷 満義 (青梅市)	<p>吉岡:これ、2点とも通してみると、表現力のある力が十分分かる作家だと思います。特に縦型の道がずーっと奥に入っていく感触はなかなかよくできた作品だと思います。</p> <p>非常に細かいタッチでしっかりと描写されていて、やっぱりこれだけ描けるのは力があるという感じがします。</p> <p>岡部:見ているとスタイルがはっきりと分かって、一つの完成したスタイルができていると思います。ただ、52番のこの橋とか、ちょっと弱い感じがします。丁寧に描いてるんだけど、できれば、木は木らしく、葉っぱや雑草は雑草らしくて、水は水、橋を橋ってといった、そういう属性をしっかりと表現して、描き分けられれば、いいのではないかなと思います。</p>
52	<p>「秋川溪谷(石舟橋)」(水彩)F-8</p> 		

第8回あきる野市絵画展
入賞・入選作品展目録
表彰式プログラム

発行:令和8年3月22日
第8回あきる野市絵画展実行委員会
あきる野市教育委員会
〒197-0814 あきる野市二宮 683
TEL042-559-1221 FAX042-559-1227